

# 新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業) 事業評価会

## 評価者のコメント

---

プロジェクト 研究・教育機関における電子ブック利用拡大のための環境整備  
代表機関 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構  
共同提案組織 東京大学、千葉大学、京都大学、九州大学、一般社団法人日本電子出版協会  
(JEPA)

### (1)これまでの実績に対する評価 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 学認に対応したコンテンツ配信プラットフォームの仕様を策定し、実証実験を行った点は評価できる。
- 学術認証フェデレーションを出版社提供の電子出版に利用することは、実現性があると考えられる。
- 学術コミュニティにおけるデータ提供者と利用者間の統一認証システムの上に、学認を活用した、電子書籍の新しい利用モデルの構築は極めて魅力的。

### (2)今後の取組に対する評価、留意点 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 大学におけるe-Learningと配信プラットフォームなどのインターオペラビリティなど、本格的運用がスムーズになるようにさらなる改良をめざして欲しい。
- 各大学の要望のとりまとめとして充分であることは理解できる。アクセスインフラを大学利用に限定する必要があるのか。さらに拡大した構想との連携が必要ではないのか。国会図書館とその外部に存在することになるかも知れない権利処理機構が対応する出版物の電子提供における大学の認証システムを利用してログインする方法等拡大モデルをあらかじめ検討しておくべきである。
- 学術コミュニティの特長を活かして、内容が高度で特化した発行部数の少ない、大学院における教材の作成・購読や、対象がもう少し大きな、学部をしっかり記述した教科書の作成と購読などへの活用を期待したい。